

**科目名**

地域文化論 飯田市・南信州を素材として

**担当者名**

各授業内容にふさわしい講師

**単位**

2

**配当回生**

2回生

**授業の概要**

本講義では、飯田下伊那地域の伝統文化と文化活動を取りあげる。南信州は民俗芸能の宝庫といわれている地域で、多くの指定文化財である芸能や伝統行事が残存し継承されてきている。また、近年は、廃村になった大平宿の保存運動、伝統産業である水引の再生、人形劇フェスタの定期開催など地域の人々と行政がともに歩み進めてきた様々な活動がある。社会の変動や飯田下伊那地域の人々の意識の変容を視野に入れつつ、体験実習なども通して、この地域の財産としての文化の変遷と特質を総合的に把握する。

**到達目標**

南信州地域の伝統文化と文化活動の概要および特質を把握し、その背景にある地域の文化を明らかにすることができる。また、地域文化活動における行政と企業メセナ、それに地域の人々の自主的な支援と参加の必要性などの発展的な課題を持つことができる。

**履修しておくことが望まれる科目**

**授業スケジュール**

**授業日**

1 民俗芸能 ①概要（民俗芸能の宝庫 南信州）

- 2 民俗芸能 ②遠山郷の霜月祭り
- 3 民俗芸能 ③新野の雪祭り
- 4 民俗芸能 ④大鹿歌舞伎
- 5 民俗芸能 ⑤浄瑠璃人形（今田人形または黒田人形）
- 6 生活文化 ①伝統産業 水引（歴史と現在）
- 7 生活文化 ②食文化（演習含む） 五平もち、市田柿、サバ寿司
- 8 文化活動 ①大平宿（成立と廃絶、その後の歩み）
- 9 文化活動 ②飯田人形劇フェスタ（概要と今後の課題）
- 10 文化活動 ③オーケストラと友に音楽会（取組み）
- 11 実習 ①浄瑠璃人形の体験実習（今田人形座または黒田人形浄瑠璃座） 半日
- 12 実習 ②遠山郷の霜月祭りの見学実習（下栗または和田の霜月祭り）  
1泊2日
- 13 講義のまとめ

### 成績評価方法

体験実習レポート、見学実習レポートで評価する。

### 授業外学習の指示

事前に南信州の情報を獲得しておくこと。特に、講義に配当してない獅子舞、手作り花火や伝統産業・食文化について事前に学習しておくこと。

### 受講及び研究に関するアドバイス

### 教科書

### 参考書

### 参考になる WWW ページ

## 地域産業論／Theory of Regional Industry

提案者		連絡先
職名		
配当年次	単位数	開講時期
<b>概要・目的</b>		
<p>地域産業が、高度情報化の進展や製造業の成熟・空洞化、など、大きな社会変化に対応しつつ発展を続けるためには、地域が蓄積してきた資本や人材、ノウハウなどの地域資源から新たな発展に必要な要素を選択し、着実に活かして優位性を確保していくことが重要である。一方で、地域産業には、地域に住む人々の生活の質的豊かさ創出という、大事な役割があることも忘れてはならない。</p> <p>本講ではまず、地域産業の基本的な捉え方を確認したうえで、地域産業の特色について事例を踏まえながら見ていきたい。そして、地域産業がもつ特色を地域発展に活かしていく方策について考えたい。併せて、こうした目標を実現できる地域産業政策のあり方について検討する。</p> <p>さらに、これら地域産業や地域政策の理論的枠組みを利用し、飯田市の産業振興の方向性について検討する。</p>		
<b>到達目標</b>		
<p>まず、産業、地域、政策などの基本的な概念とこれらの相互関係について理解する。次に、特色ある地域産業の実態について具体的な事例を踏まえ、典型的に捉える視点を習得する。それによって、様々な地域産業の特色に対応した地域産業の振興方策を提案できるようにする。</p> <p>さらに、これらの理論的枠組みを利用して、飯田市の産業振興の方向性について検討するための視点を身に付ける。</p>		
<b>スケジュール</b>		
第1回	産業を巡る基本的な理解	産業の定義、地域と産業、地域産業政策
第2回	産業政策の意義と位置付け	産業政策の定義、位置付け
第3回	国の最近の産業政策	国の最近の施策動向、産業戦略
第4回	地域産業政策の新たな方向Ⅰ	産業集積の再評価、中小企業基本法の改正、産業クラスター
第5回	地域産業政策の新たな方向Ⅱ	経済のサービス化・ソフト化への対応
第6回	地域産業政策の新たな方向Ⅲ	まちづくり三法の意義と内容、商店街の活性化
第7回	加工組立型産業Ⅰ（企業城下町）	地域をみる視点、産業振興の戦略、事例研究
第8回	加工組立型産業Ⅱ（基盤技術産業集積）	地域をみる視点、産業振興の戦略、事例研究
第9回	地場産業集積（産地）型産業	地域をみる視点、産業振興の戦略、事例研究
第10回	農村・中山間地域の産業	地域をみる視点、産業振興の戦略、事例研究
第11回	飯田市の産業（加工組立型産業）	飯田市の機械産業の特色、成長期待産業分野への進出
第12回	飯田市の地場産業	水引、半生菓子など
第13回	飯田市の観光産業	観光資源の掘り起しと南信州観光公社の取組み
第14回	飯田市の市街地活性化への取組み	飯田市のまちづくりと飯田まちづくりカンパニーの取組み
第15回	講義のまとめ	講義全体の振り返りと論点の確認
<b>教科書・参考文献</b>		
教科書	特に指定しない。	
参考書		
<b>評価方法</b>		
<p>原則として、レポート試験の評価 50%、出席状況 30%、毎回提出を求める感想・意見票の評価 20%とし、講義への取り組み状況を踏まえて総合的に評価する。</p>		
<b>履修上の注意</b>		
<p>受講者と共に考えながら進めていきたいので、新聞記事などの時事トピックスも織り込んでいきたい。自分で問題意識を持ちながら聴くことによって考える力がつくものと考えているので、講義については出席と感想・意見を重視する。強い参加意欲を持って講義に臨めることを、受講の要件としたい。</p>		

## 地域活性化論（まちおこし論）（2単位）

### 授業の到達目標及びテーマ

本講義は、21世紀における地域活性化の方向性について考察することを目的とする。人口減少時代を迎え、まちづくりや地域活性化に対する新たな考え方が求められている。飯田・下伊那地域の取り組みから、多面的な地域活性化策を理解することを目標とする。

### 授業の概要

まず、地方の人口動態と経済の動向を概観し、飯田市の基本施策について解説する。つぎに、定住人口および交流人口の増大に関して、全国の傾向を紹介したあと、飯田市における各種の取り組みをみていく。つづいて、中心市街地の活性化策をみる。さらに、地域活性化への多様なアプローチとして産業クラスター、ブランド化戦略、イベント、住民主導などの事例をみていく。

### 講義計画

- 第1回 イン트로ダクション・地域活性化総論  
内発的発展、地域再生
- 第2回 地方の人口動態と経済の動向  
人口減少、経済成長、産業構造
- 第3回 飯田市の基本施策  
経済自立度、地域経済活性化プログラム
- 第4回 定住人口・交流人口の増大に向けて  
田舎暮らし、二地域居住
- 第5回 飯田市の定住人口拡大策  
結いターン
- 第6回 体験型旅行による交流人口の拡大  
南信州観光公社
- 第7回 援農形式による交流人口の拡大  
ワーキングホリデー
- 第8回 中心市街地の空洞化問題  
まちづくり三法、スプロール
- 第9回 飯田市の中心市街地整備  
丘の上
- 第10回 まちおこしのさまざまなアプローチ

- 地元学、ネットワーク、ボトムアップ
- 第11回 新産業クラスターの構築  
地場産業振興センター
- 第12回 地域資源のブランド化戦略  
6次産業化、かぶちゃん農園
- 第13回 イベントによるまちおこし  
いいだ人形劇フェスタ、ツアー・オブ・ジャパン
- 第14回 ボトムアップ型まちおこし  
IIDA WAVE
- 第15回 まとめ・筆記試験

#### 授業外に行うべき活動

参考書の欄に示した本を読んでおくこと。また、各回で紹介する参考書も参照してほしい。

#### テキスト

テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

#### 参考書

#### 成績評価基準

最終回時の試験により評価する。

#### 情報機器使用

プレゼンテーションソフトを使って講義する。

配付資料は授業支援システムからダウンロード可能である。

## 地域環境論（2単位）

## 授業の到達目標及びテーマ

本講義は、環境問題を地域の視点から、すなわち身近な問題として捉え、その現状と解決策を考察することを目的とする。地方自治体における環境政策の実際について理解し、飯田・下伊那地域の先進的な取り組みの特徴を把握することを目標とする。

## 授業の概要

まず、地方自治体の環境政策を概観したあと、地球温暖化、循環型社会、生物多様性の各分野について解説する。それぞれの分野で飯田市が行っている取り組みを説明する。つぎに、行政以外の環境保全の担い手である、企業や市民の取り組みを紹介する。これらの事例は、全国的に見てもユニークかつ先進的なものである。

なお、地域政策論を履修済みであることが望ましい。

## 講義計画

## 第1回 イン트로ダクション・自治体の環境政策総論

授業ガイダンスと自治体の環境政策の範囲、性格、歴史

## 第2回 飯田市の環境政策の概要

21'いいだ環境プラン、環境文化都市宣言、環境首都コンテスト、ICLEI

## 第3回 自治体の地球温暖化対策

気候変動枠組条約、京都議定書

## 第4回 飯田市の地球温暖化対策

環境モデル都市

## 第5回 飯田市における再生可能エネルギー利用①

おひさま進歩エネルギー

## 第6回 飯田市における再生可能エネルギー利用②

化石燃料ゼロハウス「風の学舎」

## 第7回 自治体の循環型社会形成推進政策

廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法

## 第8回 飯田市の循環型社会推進政策

エコタウン、廃棄物の収集と処理

## 第9回 自治体の生物多様性政策

生物多様性国家戦略2010、生物多様性基本法

- 第10回 伊那谷の自然環境  
伊那谷自然ともの会
- 第11回 地域の環境保全の多様な担い手  
ステークホルダー、ソーシャルキャピタル
- 第12回 企業・事業所の環境保全の取り組み  
地域ぐるみ環境ISO研究会
- 第13回 市民の取り組み  
いいだ温暖化防止の会
- 第14回 環境学習の取り組み  
飯田市環境アドバイザー
- 第15回 まとめ・筆記試験

#### 授業外に行うべき活動

参考書の欄に示した本を読んでおくこと。また、各回で紹介する参考書も参照してほしい。

#### テキスト

テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

#### 参考書

#### 成績評価基準

最終回時の試験により評価する。

#### 情報機器使用

プレゼンテーションソフトを使って講義する。

配付資料は授業支援システムからダウンロード可能である。

■科目名： 南信州ソーシャルキャピタル・フィールドスタディ

■担当者名： 適任の複数教員による

■単位数：2単位      ■配当回生：1～4回生      ■定員：50名程度

■授業の概要と到達目標

近年、地域経営やガバナンスの在り方を考えるうえで、ソーシャルキャピタル（社会的関係資本）という概念が注目されている。住民自治や行政との協働による地域の自立・自律を確立するためには、そこに住む人々のつながりと協力が前提条件となる。ソーシャルキャピタルとは「信頼・規範・ネットワークなどの社会組織上の特徴であり、地域社会の発展に不可欠な要素」と定義されている（R.パットナム、OECD他）。本授業では、ソーシャルキャピタルの概念・理論的枠組みを講義したうえで、フィールドスタディ、市民活動実践者の報告を含むワークショップ（WS）を通じて、南信州・飯田のソーシャルキャピタル（SC）を可視化し、その実態に触れられる機会を与える。ソーシャルキャピタルとは何か、ソーシャルキャピタルを育むもの、地域文化創造・まちづくりへの発現、「生活の質」への貢献について、受講生に能動的に考えさせ、理解させる。

■本カリキュラムの意義（シラバス項目ではありませんが、本講義の説明として記載しました）

南信州・飯田を「学び場」として学生が集まる意義として、①フィールド体験、②他大学の学生相互のグループワークを通じた知的な刺激の獲得があると考え、この教育価値を提供できるカリキュラムを考えてみました。そのアプローチは、①理論（大学教員による講義）、②実践報告（ゲストスピーカーによる）、③フィールドワーク（グループ別現場体験）、④ワークショップ・総合セミナーをパッケージ化したものです。

具体的なテーマとしては「ソーシャルキャピタル」を選びました。近年注目されている「ソーシャルキャピタル」については、大学の座学だけでは学生に十分理解させることはできません。南信州・飯田には豊かなソーシャルキャピタルが蓄積し、それが地域文化創造・まちづくり・環境運動などに表出しています。しかも、飯田市と市民活動実践者の協力を得られるため、実践者の報告を聞く機会やフィールドワークの条件が整っています。ここに、南信州・飯田に学生が集う必然性・価値があると思います。本カリキュラムは、それを意識して作成してみました。

また、担当教員も一大学からではなく、WSやフィールドビジットのインストラクターを兼ねて複数の大学の教員から構成されてもよいかと思えます。



■授業スケジュール

	回数	テーマ
第1日	1 2 3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ソーシャルキャピタル論：理論的枠組み（講義）</li> <li>●ソーシャルキャピタルと地域自治・まちづくり（講義）</li> <li>●ソーシャルキャピタルを把握する（講義）</li> <li>●飯田の人・文化・社会（ゲストスピーカー）</li> <li>●飯田市の公民館活動と地域自治（ゲストスピーカー）</li> <li>●フィールドスタディ準備（公民館主事ヒアリング項目の検討：グループ別）</li> </ul>
第2日	6-9	<p>&lt;公民館活動フィールドスタディ&amp;WS&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●午前：公民館活動：各公民館主事へのヒアリング（グループ別調査）</li> <li>●午後：飯田公民館活動WS（報告発表と討論）</li> </ul>
第3日	10-13	<p>&lt;ワークショップ：SCと文化・環境・まちづくりへの発現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●午前：ゲストスピーカーによる講義</li> <li>① 地縁組織によるまちづくり・地域づくり（ゲストスピーカー）</li> <li>② りんご並木を取り巻く市民活動（ゲストスピーカー）</li> <li>③ 人形劇フェスタ（ゲストスピーカー）</li> <li>④ いいだ環境マネジメント運動（ゲストスピーカー）</li> <li>⑤ いいだウェーブ（ゲストスピーカー）</li> <li>●午後：ゲストスピーカーへのヒアリング調査・現場体験（グループ別）</li> </ul>
第4日	14-15	<ul style="list-style-type: none"> <li>●午前：総合発表会準備（WS）</li> <li>●午後：グループ別総合発表：飯田のソーシャルキャピタル</li> </ul> <p>飯田のソーシャルキャピタルとは</p> <p>ソーシャルキャピタルを育むもの</p> <p>地域文化創造・まちづくりへの発現</p> <p>飯田の「生活の質」向上への貢献（飯田ライフ）</p>

■成績評価方法

個人レポートとグループ発表の内容・貢献によって評価する。

科目名

地方都市圏の行財政論 ― 飯田市・南信州を素材として ―

担当者名 / Instructor単位数 / Credit

2

配当回生

2回生以上

授業の概要 / Course Outline

本講義は、日本の地方自治と行財政の特質を、一定の社会経済的・行政的なまとまりをもった地方都市圏という具体的な地域に即して明らかにするものである。日本の地方自治の特質の一つは国土構造などの歴史的・地理的要因を反映して、人口規模の異なる多様な基礎的自治体が存在し、しかも多くの事務事業を担っていることである。なかでも小規模自治体においては住民と役場との距離が近く、住民主体の多様な取り組みが展開されている。また、小規模な自治体が存在する地域においては府県による補完、広域行政や自治体間連携の役割が大きい。一方では、人口一定規模以上の都市における狭域自治・行政を制度化する課題がある。国との関係では、自治を拡充するための分権改革や自治の主体形成の課題がある一方、基本的人権保障に対する国と自治体の責任をどう果たすかという課題が存在する。

本講義では、具体的な素材として長野県飯田市および南信州地域をとりあげる。南信州地域は一定のまとまりのある経済圏であるとともに、行政的にもそのエリアを長野県下伊那地方事務所および南信州広域連合がカバーしている。中心都市である飯田市の周辺に小規模町村が多く存在するとともに、歴史的に自治体間連携が進んだ地域でもある。近年では定住自立圏構想を進めている。また、飯田市では昭和の合併前の旧町村単位の自治を重視し、地区公民館を維持するとともに近年では地域自治区制度を導入している。このように飯田・南信州地域は重層的自治の仕組みが発達した地域であるといえよう。

本講義では、飯田・南信州地域を素材として、日本の国土構造や共同体を基礎とした基礎的自治体の歴史的展開、基礎的自治体の任務拡大を踏まえ、自治体行財政の仕組みおよび重層的自治と自治体間連携の構造と特質を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の地方自治と行財政の基本的な原理や仕組みを理解すること。また、南信州地域における重層的自治と自治体間連携の構造の概要、および特質を把握すること。

以上の事項の理解をもとに、南信州の事例に即して地方自治や行財政の課題について論じることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に履修しておくべき科目はないが、以下の科目を履修しておくことは本科目の理解を深めるために役立つ。 地域経営論、地方自治論、地方財政論

授業スケジュール / Course Schedule授業日(第N回) テーマ / Themeキーワード / Key Word

1	地方都市圏行財政論の課題と視点、地方自治とは何か	
2	地方自治の歴史と現段階	
3	自治体の政治・行政機構	
4	自治体財政の仕組み	
5	自治体の総合計画と行政評価:飯田市を事例に(ゲストスピーカー)	
6	自治体予算と住民参加:長野県阿智村を事例に(ゲストスピーカー)	
7	自治体財政分析の実際:飯田市を事例に	
8	地方都市圏における重層的自治と自治体間連携	
9	広域行政と自治体間連携の展開:南信州広域連合を事例に(ゲストスピーカー)	
10	自治体間連携の展開:南信州定住自立圏を事例に(ゲストスピーカー)	
11	公民連携を含む自治体間連携の展開:南信州における地域医療における地域連携を事例に(ゲストスピーカー)	
12	広域圏における府県出先機関の機能:長野県下伊那地方事務所を事例に(ゲストスピーカー)	
13	地方都市における地域自治と自治体内分権:飯田市における地域自治区を事例に(ゲストスピーカー)	
14	分権改革と地方都市圏行財政の展望	
15	講義のまとめ 筆記試験	

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

最終講義における試験によって評価する

授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

下記の参考書を事前に読んでおくこと。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and ResearchMethods

地域とは何か、地方自治とは何か、地方自治はなぜ大切かといった本質的な問いを重視するとともに、地域における具体的な課題に目をむけて、地域課題に関する背景や制度、自治体の取り組みなどをイメージすることを心がけておくこと。

教科書 / Textbooks

指定しない。適宜に参考文献を紹介する。

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

飯田市ホームページ

南信州広域連合ホームページ

下伊那郡各町村ホームページ

長野県下伊那地方事務所ホームページ

その他 / Others

科目名：フィールド・スタディ
----------------

<b>履修の目安</b>	フィールド・スタディ： プロジェクト名「持続可能なまちづくり：長野県飯田市における調査」 <b>【1】</b> 登録科目名：フィールド・スタディ ● 2単位（2011年秋 Semester 科目として登録） ● Semester の登録可能単位数の上限に含まれます。 <b>【2】</b> 開講言語：日本語 <b>【3】</b> 実施場所：日本、長野県飯田市 <b>【4】</b> 実習中使用言語：日本語 <b>【5】</b> 事前申請による審査あり
<b>授業のねらい</b>	1980年以降世界で使われる「持続可能な発展」の概念を学び、実際のまちづくり政策にこの概念がどのように取り入れられているか、またはどのような現実的な問題があるかを探る。 飯田市は環境首都コンテスト全国ネットワークが主催する持続可能な地域社会を創る「環境首都コンテスト」で数年連続10位以内の評価を受けている。産業政策においては環境関連の企業立地や新たな環境関連産業の起業を支援し、市民への環境教育の取組みも積極的に行っている。 このような様々な実績を持つ飯田市の環境政策を学び、持続可能なまちづくりを考えたい。
<b>到達目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な開発の概念を説明できる</li> <li>・調査計画を立てることができる</li> <li>・現地での講演やインタビューから目的に沿った情報を得ることができる</li> <li>・文献資料と現地調査から得られた情報をまとめることができる</li> <li>・環境政策の提案について、事後調査・分析し、一定水準のレポートを作成することができる</li> <li>・レポートと提案を、関係図等を用い、分かりやすく発表することができる</li> </ul>
<b>授業方法</b>	(1) 事前学習：講義とグループワーク (2) 現地調査：飯田市で現地講義を受け、行政や企業、住民に訪問調査、及び関連施設を見学する。また、他の大学の学生とグループワークをする。 (3) 事後学習：現地で得た情報のとりまとめ、発表とレポート作成
<b>毎回の授業の概要</b>	<b>【事前学習】</b> 5コマ程度を予定 内容： ① 持続可能な発展を学習、関連基礎知識を把握する。持続可能性の概念をベースに飯田市まちづくり政策を学習、特に環境モデル都市及び環境首都の内容を理解する。 ② 循環社会、バイオマスタウン、バイオマス利用及び事例を学習する。 ③ 低炭素社会、再生可能エネルギーの利用に関する事例や政策を学びます。 ④ フィールド調査計画づくり（グループ毎） 課題、調査項目の検討と役割分担を行い、フィールド調査のマナー等を考える ⑤ グループごとの課題と調査計画を発表する。  <b>【現地実習】</b> 6コマ程度を予定 内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>- 地方市政、企業、政策に関する講義、講演、視察。</li> <li>- 他大学からの参加も予定されています。</li> </ul> ① バイオマスタウン計画、木質バイオマス利用補助金、森林マネジメントに関する行政からの講義を受ける。行政担当者にインタビューする。（政策） ② バイオマス利用技術、木質パレット生産工場、伐採現場に関する産業、及び関連施設を見学する。（産業）参加者と利用者にヒアリング調査をする。（社会）

	<p>③太陽光・熱利用の促進政策に関する講義を受ける。行政担当者にインタビューする。(政策)</p> <p>④経営事例おひさま進歩エネルギー会社を訪問し、関連施設を見学する。(産業) 参加者と利用者にヒアリング調査をする。(社会)</p> <p>⑤環境モデル都市、環境首都の計画に関する講義を受ける。行政担当者にインタビューする。(政策)</p> <p>⑥産業界の参加、取組を訪問調査する。(産業) 参加者と利用者にヒアリング調査をする。(社会)</p> <p><b>【事後学習】</b> 3コマ程度を予定          内容：①調査のまとめと発表                ②課題レポートの修正                ③最終発表会</p> <p>総計 14コマ</p>
<p><b>成績評価方法</b></p>	<p>すべての事前学習、現地調査、事後学習への出席と、最終レポートの提出が必要です。欠席した場合は単位認定をしません。</p> <p>事前学習への積極的な取組みと調査計画：25%          現地調査での積極的な取組みと収集した情報や記録の正確さ：25%          レポートと発表への積極的な取組み：50%</p>
<p><b>学生への要望事項</b></p>	<p><b>【1】</b> 保険: なし</p> <p><b>【2】</b> 参加にあたってのその他の留意事項など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 残暑の時期ですので、<u>良好な健康状態と十分な体力</u>が必要です。</li> <li>● 現地に行くだけでなく、事前学習で資料の読解に<u>真剣に取組み</u>、事後学習で情報をまとめることが必要です。</li> <li>● グループワークが基本であり、同時期に飯田市を訪問する他大学の学生との交流(発表など)が予定されています。<u>積極的に人と接する姿勢</u>が必要です。</li> <li>● 外部のたくさんの方々の協力のもとに実行するプログラムですので、<u>大人として責任と誠意のある行動</u>を求めます。</li> </ul>
<p><b>テキスト</b></p>	<p>参加が決まった学生に個別連絡をします。</p>
<p><b>参考図書</b></p>	<p>参加が決まった学生に個別連絡をします。</p>
<p><b>備考</b></p>	

科目名

観光政策 — 飯田市・南信州の観光振興に向けて —

担当者名 / Instructor

単位数 / Credit

2

配当回生

授業の概要 / Course Outline

本講義は、飯田市・南信州の観光振興に向けていかなる観光政策が、策定できるか、という目標のもとに、観光に関しての主要な事項を学ぶ。

観光を学ぶについて、その対象が多様な分野にわたり、また観光の学問自体が観光学としての体系化が熟しているとはいえないので、あるテーマをめざして学ぶ場合、当該テーマに即したカリキュラム編成をする必要が生じてくる。本講では、飯田市・南信州の観光振興にかかる観光政策の策定のために必要な要素を修得するというコンセプトのもと講義プランを作成している。

そのような、コンセプトのもと、本講義では、観光の概念、観光政策一般論、観光産業全般、観光産業（特に宿泊）各論、具体的旅行形態各論と、大きなカテゴリーから徐々に、具体的な事象に焦点を絞って、飯田市・南信州の観光振興のための素養を学べるように講義プランを作成している。

到達目標 / Attainment Objectives

観光全般の概念を理解したうえで、飯田市・南信州の観光振興に向けた基礎事項が把握できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講は、本テーマに即して、完結方式でたカリキュラム編成しているため、特に履修しておくべき科目はないが、以下の科目を履修しておくことは本科目の理解を深めるために役立つ。

行政法、マーケティング論、経営戦略論、サービスマネジメント、公共政策

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回) テーマ / Theme

キーワード / Key Word

- |   |         |
|---|---------|
| 1 | 観光とは    |
| 2 | 観光政策概要  |
| 3 | 観光法制概要  |
| 4 | 観光産業概要1 |
| 5 | 観光産業概要2 |
| 6 | 地域観光戦略  |

- 7 地域観光マーケティング
- 8 宿泊産業概要
- 9 宿泊産業とホスピタリティマネジメント1
- 10 宿泊産業とホスピタリティマネジメント2
- 11 エコツーリズム
- 12 グリーンツーリズム1
- 13 グリーンツーリズム2
- 14 地域観光の実際(ゲストスピーカー)
- 15 講義のまとめ 筆記試験

### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

最終講義における試験によって評価する

### 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

下記の参考書を事前に読んでおくこと。

### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research

#### Methods

地域にとって観光はいかに寄与するかという視点、観光産業としての企業体がいかに組織を維持しあるいは収益をあげるかという視点、観光者の立場から求められる満足とは何かという視点が融合され、それぞれが調和したベクトルはどこに向かうのかということを心がけながらとりくむこと。

#### 教科書 / Textbooks

指定しない。適宜に参考文献を紹介する。

#### 参考書 / Reference Books

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

飯田市ホームページ

南信州広域連合ホームページ

下伊那郡各町村ホームページ

長野県下伊那地方事務所ホームページ

#### その他 / Others